

# 令和元年度市民公益活動支援 補助事業完了報告

1. 事業の概要
2. 各論
  - 1) 研究会セミナーの開催
  - 2) 会誌の発行
  - 3) 六十六部供養塔の調査
3. 結果と今後の展開
4. 助成金の主たる使途

房総古代道研究会

# 1. 事業の概要

1) 名称: 房総古代道研究会事業

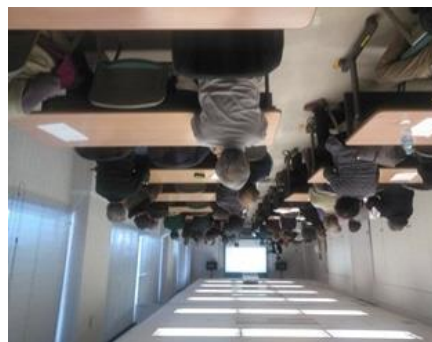
2) 目的: 地域史の民間研究調査機関の役割を果たすべく、研究会セミナーの開催、会誌4号の発行、六十六部 供養塔の調査を行い、その成果を市民に公開する

3) 結果:

内 容	結 果
セミナー開催	隔月4回開催し、121名の市民が参加した。
会誌発行	予定通り12月に発刊し、行政機関に41部、市内外の公的機関に29部、有識者に54部寄贈した。
供養塔調査	全市調査の60%を終了した。文献上知られた32基を現地確認したうえで、新たに39基を発見できた。

## 2. 各論(1) 研究会セミナーの開催

開催日	演 題	講 師	参加者
第47回セミナー (7/27)	ロン・ロドリゴの御宿漂着 と徳川家康	岸本静江 (鶴舞在住)	30名
第48回セミナー (9/28)	十辺舎一九の 『房総道中記』	小関勇次 (今津朝山在住)	34名
第49回セミナー (11/16)	中国唐代の交通路と 古代東アジアの交流	河野保晴 (立大兼任講師)	25名
第50回セミナー (1/25)	下総国周辺の古代道	垣中健志 (県教育振興課)	32名



## 2. 各論(2) 会誌の発行

目次	
【インタビュー】	上総国海上郡の「嶋穴神社」・「姉崎神社」について……………谷島一馬 1
【研究論文】	オトタチバナヒメと走水と古代の東海道……………前之園亮一 4
『更級日記』時代の古代の大略……………佐々木虔一 7	
東国防人の実態く多視点からのアプローチ……………石渡芳樹 16	
『更級日記』の「いまたち」・「いかにだ」を再考する……………山本勝彦 24	
【講演会記録】	万葉集からみた防人の旅路……………小野一之 33
十返舎一九の『房総道中記』について……………小関勇次 37	
ドン・ロドリゴの御宿漂着と徳川家康……………岸本静江 42	
【随想】	坐禅風瞑想の航跡……………西山勝裕 46
古代の忌部氏を訪ねて……………原田みどり 51	
【コラム】	鈴木大拙に逢える金沢市の新名所……………山本友子 50

- A4版58ページ×300冊製本
- 寄贈先
  - ・ 市役所 10
  - ・ 市議会 33
  - ・ 図書館
    - 市内 (中央図書館・公民館) 17
    - 市外 (国会図書館他) 12
  - ・ 有識者 54
  - ・ マスコミ他 12
  - ・ 執筆者 50



## 2. 各論(3) 六十六部供養塔の調査

### 1) 目的

六十六部とは全国の著名な社寺を廻り、法華経の書写を奉納する修行である。行者の功績を顕彰するために廻国供養塔が建てられた。

千葉県には約1000基の供養塔があるが、市原市の調査は不十分で実態調査が待たれる状況にある。

### 2) 調査機関

房総古代道研究会の中に「いちほら六十六部供養塔調査の会」の組織を立ち上げ。他団体（かずさのくに国府探検会・いちほら里づくりの会）の賛同を得て7名で発足。指導者に石造物研究者の早川正司氏（千葉県文化財保護協会理事長）を招聘した。

### 3) 調査手法

先行文献を調査して、佐野彪氏（勝間在住）の報告が27基、その他の関連文献から5基、計32基が既知の情報であった。

これらの現地確認を行うとともに、ゼンリンの市内地図から、すべてに社寺、墓地、三山塚、記念碑を洗い出し、悉皆調査を実施した。

#### 4) 調査結果

令和2年2月の時点で市内領域の60%を終了し、39基の供養塔を新たに発見することができた。

中間報告の段階であるが興味ある知見が得られつつある。

- ・江戸時代の地名の呼称がわかる
- ・当時の村の世相や有力者の氏名がわかる
- ・遠国出身の行者も多く、江戸時代の交通事情や世相がうかがえる
- ・三山塚で建てられることが多く、市原は出羽三山信仰と関わりがある
- ・道標を兼ねたものがあり、江戸道の復元が可能である

中間報告書を作成した。



### 3. 成果と今後の展開

1. 研究会セミナーは、市原市を中心とした房総地域史のテーマをとりあげ、温故知新的な情報を提供し啓蒙的に貢献できたと思う。  
今後もテーマを工夫して継続したい。
2. 会誌4号の発行は、セミナーの講演内容などを文字情報として残すところに意義がある。図書館などへ寄贈して市民が閲覧できるようにした。
3. 六十六部供養塔の調査は、市原市の新規文化財の発見に貢献できる確信を得た。市原市の江戸交通史や民俗史に新しい知見を加えることが出来そうである。調査は60%の段階であり、これを完了させて最終報告書を発行する。

### 4. 助成金(10万円)の主たる使途

・ 会誌製本費	51,960円
・ 講演会場費	23,138円
・ 供養塔調査	33,263円